

令和6年度 学力向上指導改善プラン

三田市立藍中学校長 鯉ノ内 克枝

学校教育目標		夢や希望を持ち 心豊かにたくましく 共に生きる生徒の育成		4月		2～3月		
推進主体		管理職・研究推進担当・各教科代表による 研究推進委員会を中心に推進		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
						評価		
学 力 の 状 況	全国学 力・学習 状況調 査結果 (国語、 算数・数 学に関 する質 問調査 の結果 も含む)	国語	○ほとんどの領域で全国平均より高い平均正答率であり、学力の定着が見られた。〔情報扱い方に関する事項〕は、全国平均を12%上回る良好な結果であり、意見と根拠など、情報と情報との関係について、多くの生徒が理解できている。 ◆漢字の書き取り問題の正答率が唯一全国平均を下回った。 ◆古典と比較して書く問題では、正答率が55%にとどまり、無解答率が全問題一着高かった。文章の構成や読解、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。	授業改善および学習習慣の定着	・「学校・家庭・地域が連携し、自ら学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる学習指導の在り方～個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指して～」を研究テーマとして、すべての生徒に分りやすい学習指導の工夫、授業改善につながる学習指導のための評価を取り組み、確かな学力を身に付けさせる。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進め、基礎基本の定着を図る。 ・「学習タイム」や「ひょうごがんばりタイム」の活用により、基礎基本や学習習慣の定着を進める。	・各単元の最初、身に付けるべき力と評価について明示し、すべての生徒が90評価以上に近づき「わかる授業」を目指し、授業改善を行う。 ・黒板等に毎時間「めあて」「学習の流れ」を明示する。生徒に「学習のめあて」を明確にし、「学習の流れ」を明確にすることで、主体的に学ぶ姿勢を培う。また、「振り返り」を書きこむことで、学習内容の定着と学ぶ意欲の向上を図る。 ・iPadの効果的な活用など、授業改善に向けて授業力向上のために研修を行う。 ・授業改善や授業力向上のために授業公開期間を設ける。授業公開期間だけでなく、自らの授業参観も活発に行い、互いに学び合う集団作りを努める。 ・ICT機器を効果的に活用し、資料の提示や板書などを工夫し、授業内容を理解しやすくする。 ・より具体的な授業改善を目指し、年2回の生徒への授業アンケートを行い、授業改善に活用する。 ・資料を読み解く機会を多く取り入れ、資料を比較したり自分の考えを構築したりする体験を大切にす。 ・目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、文を書く力を身に付けさせる。	◆全国学力・学習状況調査の結果は、国語で平均正答率が全国平均を3.1ポイント下回った。特に「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均と比べて差が大きい。数学では、すべての領域で全国平均を下回った。基礎基本を確実に定着させ、学力向上を目指し、取り組んでいなければならない。 ◆「学校評価アンケート」の「学校は、学力向上の取り組みがされている」という質問に対する肯定的回答は、生徒88.9%、保護者89.3%で差がある。生徒保護者ともに学力向上の取り組みがされていると実感できるように努めた。 ○授業公開期間を設け、授業改善や授業力向上のために取り組みことができた。「学校評価アンケート」では、「先生は、授業がわかりやすいように教え方を工夫している」という質問に対して、肯定的回答が94.0%であった。	A
		算数 数学	○全ての領域で全国平均より高い平均正答率であった。特に、「関数」「データの活用」に関して、多くの生徒が理解できている。 ◆「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」設問は正答率が低く、無解答率が高かった。記述式の問題では、無解答率が高い傾向が見られる。					
		定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○基礎基本の内容についてはおおむね理解できている。 ◆身に付けた知識を活用して、問題を解決する応用力に課題がある。 ◆学力の定着に二極化の傾向が見られる。					
授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習態度で積極的に授業に参加している。 ◆宿題だけではなく、自分で考えて自主的に学習することに課題があり、家庭学習の習慣がなかなか身に付いていない生徒もいる。	人権教育を基盤にした小中通携	・中学校区3校による、交流研修の充実(三校研)。 ・学力向上に向けた小中通携の推進。 ・9年間の学びに向けた小中一貫教育の推進。	・人権教育・道徳教育研修を共に行う機会を持ち、共通認識を深める。 ・小学校教職員を対象に、中学校での道徳指導の実態を説明し、中学校卒業を見据えて、小学校から養うべき学習での姿勢や身に付けるべき力を共通理解する。 ・全国学力・学習状況調査の合同分析を三校研で実施し、その後合同研修会を実施し、学習指導や生活指導に活かす。 ・小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組む。 ・学校間連携として授業参観の機会を持ち、教師間の交流を図り、連携を深める。	○学校園所連携として各校での取り組みの成果や課題を共有し、めざす子ども像を設定して目標達成に向けて取り組むことができた。授業参観の機会や合同研修の場を持ち、教師間の交流や連携を深めることができた。小学校での学びを中学校での学びへ活かし、継続して行う取り組みを進める。	A		
慣 学 ・ 力 上 向 上 に 関 係 等 る 学 習 状 況	全国学 力・学習 状況調 査の質 問調査 による児童・生徒の状況	学校評価などのアンケート調査	○「学校の学習時間以外に、普段(月から金)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問では、「2時間以上」(2.1%)、「1時間以上、2時間未満」(12.8%)、「30分以上、1時間未満」(23.4%)と、1日の読書が30分以上している人数が多い。 ◆「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間勉強を読みますか」という質問では、1時間以上学習している割合が1.9ポイント全国平均を下回った。また、2時間以上学習している割合は兵庫県平均を14.9ポイント下回った。	家庭学習の充実	・計画的に家庭学習をする習慣を身に付けさせる。 ・家庭への参発及び連携により、家庭学習の定着をより進める。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、予習・復習の習慣を身に付けさせる。	・家庭学習の定着を図るため、校区の小学校と「藍中校区区一人学ばの手引き」を作成するなど連携し、発達段階に応じた学習習慣を身に付けられる環境を整える。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、予習・復習の習慣を身に付けさせる。	○「学校評価アンケート」では、「家庭学習の習慣が身に付いていると思う」という質問に対し、肯定的回答が3年生で86.0%であった。3年生は前年度の肯定的回答が44.9%であり、大幅に増加している。しかし、1年生は55.6%、2年生は57.9%、保護者は58.0%という結果であり、引き続き、家庭学習の習慣が身につくよう取り組んでいく必要がある。	B
		学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○ルールやマナーを守り、授業や部活動、学校行事に意欲的に取り組んでいる。 ◆家庭学習の習慣が身に付いていない生徒がいる。 ◆授業中、分からないことを質問することにより、めづる生徒が多い。	読書活動の充実	・「朝読書タイム」の活用などにより、読書の習慣を身に付けさせる。 ・読書室の時間を確保したり、図書委員会の活動を通して学級文庫の設置や図書室利用の呼びかけなどを活発に行うことにより、読書のしやすい雰囲気をつくる。 ・国語の授業で身に付けた読む力を活用し、読書活動の推進に取り組む。 ・読書の時間を確保したり、図書委員会の活動を通して学級文庫の設置や図書室利用の呼びかけなどを活発に行うことにより、読書のしやすい雰囲気をつくる。	○1年生で朝読書の時間を設けたり、図書委員会の活動を通して、本に親しむことができた。 ◆「学校図書アンケート」では、「1か月どのくらいの本を読んだか」という質問に対し、「0冊」という回答が、1年生46.9%、2年生50.0%、3年生45.0%という結果であった。今後も読書活動の推進に取り組んでいく。	B	
授 業 改 善	ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	○1人1台端末を使って各自が問題演習に取り組み朝学習が定着している。各自で問題の難易度などを選択できるため、個々に合わせた学習ができていた。 ◆発達段階に応じた情報モラル教育やタブレット端末の適切な活用を進める。 ◆ICT機器を効果的に活用した授業実践を増やしていく。 ◆従前からの授業方法にデジタル技術を組み合わせ、iPad等も適切に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指す。	学習環境の整備と学習意欲の向上	・個別最適な学習の充実。 ・個別の目標設定。 ・間違いを恐らずに、自分の考えを発表しようとする態度と、それを受け入れられる学級の雰囲気作り。 ・1人1台端末の使い方のルールやマナーを定着させる。 ・教育相談体制の充実を図り、生徒に共感し寄り添う指導の深化をさせ、学びの環境を整え、学習意欲を高める。	・タブレットを用いた学習課題や、ひょうごがんばりタイム、テスト前や長期休業中の学習相談など、一人ひとりに応じた学習活動、学習課題を提供する。 ・授業のユニバーサルデザイン化(黒板に共通して明示するもの、プリント文字のフォントやサイズなど)を進め、学習の見直しや学習の足跡がわかる板書計画や授業の展開を図る。 ・調べ学習や意見交流、考察のまもなどで積極的に端末を活用すると同時に、端末の使い方のルールやマナーを身に付けさせる。	○「学校評価アンケート」では、「どの授業にも真剣に取り組んでいる」という質問に対し、肯定的回答が92.3%であった。 ○タブレットを用いて各自が問題演習に取り組み朝学習が定着している。朝学習の時間以外にも自主的にタブレットを用いた学習を進める生徒が増えている。 ◆発達段階に応じた情報モラル教育やタブレットの適切な活用、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。	A
		校 内 研 究 の 状 況	○「誰もがわかる授業づくり」を目指して、めあての確認と振り返りを各教科で定着させ、学習指導を工夫し、授業改善を進めた。 ◆生徒のつまずきなどへの支援方法など、個に応じた支援を考える必要がある。 ◆全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、基礎基本の定着から活用する力をつけるための取り組みを進める必要がある。	地域との関わりとキャリア教育	・生徒が自分らしい生き方を実現する力を育んでいくために、将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 ・トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心を持ち、地域に対して興味や関心を持たせる。 ・トライやるウィークで地域の職業体験や、ボランティア活動などを通して、地域のことに関心を持ってより愛着を感じたりできるようにする。 ・トライやるウィークを通して、自分の適性などについて考え、進路選択を進める。	◆「全国学力・学習状況調査」では、「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合は、53.1%であった。キャリア教育や進路学習を充実させていく。 ○夏祭りなど地域の行事に参加し、地域との交流をもつことができた。 ○トライやるウィークでの体験を通して、自分の将来や地域の仕事について関心をもつことができた。	B	
家 庭 ・ 校 内 研 究 の 状 況	家庭・地域等の状況	○学校教育活動に協力的である。 ○生徒は地域行事へ積極的に参加しており、地域との連携も活発である。	家庭・連携 の 状 況	○小・中における教科連携等の状況	○小・中における教科連携等の状況	◆全国学力・学習状況調査の結果は、国語で平均正答率が全国平均を3.1ポイント下回った。特に「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均と比べて差が大きい。数学では、すべての領域で全国平均を下回った。基礎基本を確実に定着させ、学力向上を目指し、取り組んでいなければならない。 ◆「学校評価アンケート」の「学校は、学力向上の取り組みがされている」という質問に対する肯定的回答は、生徒88.9%、保護者89.3%で差がある。生徒保護者ともに学力向上の取り組みがされていると実感できるように努めた。 ○授業公開期間を設け、授業改善や授業力向上のために取り組みことができた。「学校評価アンケート」では、「先生は、授業がわかりやすいように教え方を工夫している」という質問に対して、肯定的回答が94.0%であった。	A	